

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズルームこすもす		
○保護者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和7年2月10日		令和7年2月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・こどもの特性等に応じた支援	・一人ひとりに合わせ、伝え方や遊びの工夫を行っている。 ・理学療法士、作業療法士の専門職による支援を定期的に行うことができている。心理相談員、言語聴覚士による評価を希望で受けることができている。	・定期的な情報交換や専門職による職員研修を行っていく。 ・専門職との情報共有を生かし、保育士等の療育職員ならではの感性を生かした活動やかかわりを行っていく。
2	・こどもの健康や発達の状態について共通理解	・保護者とは、親子療育の中で、直接会話をするだけでなく、連絡帳も使用し、保護者は任意で記入し、活用している。 ・例えば午前睡する子の活動の時間について、実際の状況、保護者の希望や困り感、全体像からの優先する支援を踏まえ、多職種を交えて話をするなど、より客観的、多面的な見方ができるよう、保護者、職員間での共通理解を図っている。	・こどもの健康や発達についての研修を、保護者、職員を対象に実施した後、保護者アンケートをとるだけでなく、こどもの具体的な状況について保護者と意識的に話し、理解を深めていく。
3	・保護者への共感的な支援	・登園時刻は午前9時50分から10時だが、家庭の事情や、こどもの生活リズム等の事情を考慮し対応している。 ・親子療育の中で、いろいろな場面でたいへんさや、こどもの変化、成長、感動等、保護者と共感している。	・事業所としての役割を意識し、他機関とより連携しながら支援していく。 ・保育園利用児が増えているので、就労や園との連絡等の多忙によるストレス等にも配慮し、メール等の使用も含め、より円滑なやりとりを努める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・きょうだい向けの支援が少ない	・きょうだいに参加できる行事が少ない。	・きょうだい参加行事に、きょうだい同士が会えるような日程調整を検討する。
2	・地域のこどもとの交流の機会が少ない	・近くに公園があり、インクルーシブ遊具で遊ぶ機会があるが、体温調節等の難しさがあるため、天候の良い限られた時期にしか散歩を設定していない。 ・感染症予防対策のため、隣接の事業所との交流も少ない。	・散歩を意識的に多く週案に取り入れる。 ・感染症の予防をしながら、隣接の事業所との交流を計画的に設定する。
3	・ホームページやSNS等での情報発信	・在園児保護者に対しては、対面や紙面、メールでの発信で対応しているが、保護者にとっては不足を感じられている。 ・入園を検討する人は、相談支援員やこども発達センターを経由してくるため、必要性を少なく見積もっていた。	・在籍していない人、情報をもっていない人を見ることを意識して、ホームページの内容を見直す。